

## 学際的Q&Aを通じてみる「ばい菌言説」

片岡 邦好

Q: 1980年代からばい菌の「生物学的用例以外」のものが新聞等で急に増えている点について伺います。そうしたばい菌についての記述が新聞で見られる場合、そのような言い方することに問題があると指摘するような文脈での記述が多いような気がします。ということは、ばい菌の生物学的でない用例が特に1980年代から増えてきたということではなく、以前からあったものが問題として認識されることで、ようやく1980年代あたりから起こってきたという理解でよろしいでしょうか。

A: その通りです。特に差別やいじめにおける「ばい菌」の使用は、公民権や人権意識の世界的な高まりに加え、1980年代に多くの日本人が豊かさを実感する時期になり、社会的弱者にまで目が届きやすくなったことで表面化した現象であるように感じます。特に1980年代の陰湿化した校内暴力の一形態として「ばい菌」が用いられたことで、再びその語がクローズアップされたと考えるべきでしょう。実は、すでに戦前においても（少数ではありますが）生物学的でない、比喩的に人物を揶揄する「ばい菌」の用例は散見されます。さらに以前、明治後期における梅毒などの伝染病の蔓延に加え、北里柴三郎がペスト菌を発見しノーベル賞候補になったことで19世紀から20世紀にかけて「黴菌（かび）」と「きのこ」の合称語の使用は新聞で一気に広まりました。（もちろんこの時期は生物学的な意味での使用で占められています。）

戦後は「ばい菌」の用例は激減し、「病原菌」という表現が増加しますが、1980年代から再び「ばい菌」が復活します。（人氣絵本／アニメ「アンパンマン」の登場人物「ばいきんまん」の影響も見逃せません。）1980年代以降の顕著な用法は、排除やいじめの文脈で用いられるものですが、生物学的な用例も再度増えています。この点から、一旦影を潜めたものの、社会問題化と同時に生物学的な用法も復活してきたといえそうです。ここからはあくまで推測ですが、そのころから「ばいきん」や「バイキン」と書かれる例が増えていくことから、「アンパンマン」の影響のほか、その字面が醸し出す印象からその語を用いることへの抵抗感が薄れた面もあると思います。これらの字体の多様性は指示対象の拡張と軌を一にしています。この点で、社会的な認知と新たな指示対象の獲得は相互依存的に拡大してきたといえます。

Q::この問題を多くとりあげる新聞が、リベラル系であることから、そのように理解されるように思われますが。

A::リベラル系の新聞に比較的多いことは確かですが、保守系新聞との差が激しいというほどではありません（恐らく統計的な有意差はないと思われます）。とはいえ、一般的な傾向として、人権意識や多様性の担保、少数者・被差別者への配慮という点はリベラルな論調と親和性が高く、伝統と文化的価値観の保持や明治期以降の家父的な家族観は保守的な論調に多く見られることから、この問題については前者の関心により深く結びついている可能性はあるでしょう。

Q::ばい菌言説自体は、新聞に載らないような形では、かなり前からかなり幅広く蔓延していたと理解されるように思いますが、それでよろしいでしょうか。

A::その通りであると思います。取材をもとに新聞記事を書くわけですので、日常的にはかなりの認知度を得ていたはずですが、恐らく露悪な例は校閲の段階で省かれたり、トーンを抑えた表現になっていると考えられるので、それ以前から用いられていた可能性は高いでしょう。事実、すでに大正時代には「害悪の元」といった意味で人や抽象概念に対して用いられた例が見受けられます。ただし「いじめの対象」に対して用いられた例は、その頃の新聞には見当たりませんでした。また、「外国人」や「やっかい者」に向けられた例は1980年代以降に出現しています。

Q::それから、ついでにお伺いしますが、もし、新聞などで問題にされる以前から、かなり蔓延していた可能性があった場合、どの程度蔓延していたのかについて、調べようがあるのでしょうか。

A::この点は情報学の専門家に伺いたいところですが、恐らく残された記録のジャンル次第かと思えます。日常会話（ここにおいて最も使用されたと思います）は録音や書き起こしが無い限り調べようがありません。ただし、国会図書館などでかつての大衆紙／誌のデータベースなどを検索すれば、さらに多様な用例が見つかる可能性はあります。しかし、新聞のように安定して大量の、長期にわたるデータが構築されているものは少ないと思われれます。そういった制約を考えると、新聞データベースはある程度社会における受容の程度と（良識的な）使用法を反映していると考えます。

Q：汚わいと禁忌についてだったと思いますが、対象の曖昧さを否定して単純化するというような話がありました。私を知るあるいは理解する限りでは、話の単純化、因果関係の単純化、それによってわかりやすい話を作ってしまうそれで理解した気になるという、人間のもっている心理的バイアスのようなものと理解しています。

A：おっしゃる通り、人間に共通した心理的バイアスであろうと思います。とはいえ、多くの社会言語学／言語人類学の方法論では、自国のみならず多様な文化やコミュニティにおける参与観察やインタビューを通じて、現地／現場の人々のふるまいや解釈の根底にある理念を質的に検証することを旨とします。そのようなフィールドワークによって得たデータを帰納的な考察に基づいて一般化し、導き出された人々の対処法として、今回はDouglas (1966) と Irvine and Gal (2000) という人類学者のモデルを参照しました。そういった理論が欧米の思考の枠組みから逃れられないのではという疑念は常にあり、社会人類学などではポスト構造主義以降、このような一般化にかなり懐疑的になっているのは確かです。しかし社会言語学や言語人類学では、通文化的な検証を経ているという前提で、文化相対性を維持しつつも体系化や類型化に一定の意義を見出しています。上述の心理バイアスの人類学的な類型化と考えていただいてもけっこうです。

Q：当日質問させていただいたケガレですが、そこでも最後に付け加えましたように、私が気にしたのは、ケガレがいつまでたってもおちない、一滴でも悪いものがあれば汚されてしまっている（その逆に、例えば親鸞の血が一滴でも流れていけば、本願寺のトップになれる、神武天皇（？）の血が一滴でも流れていけば、大切にされる）というような発想との関係です。もしもこうした発想が西洋にはないとすると、ケガレと dirt などはずいぶん違うものであり、ばい菌言説がそうしたものに影響されているとすれば、日本でのばい菌言説と西洋などのそれとの対比が、その観点からとらえなおされる可能性もあるかなと思います。

A：この点も、ご指摘の通り Dirt と穢れはかなり異なる概念だと思っています。疑念を招いてしまったのは、「汚あい」という表現を用いたことが大きいように思います。今回参照した M. Douglas の著書の原題は *Purity and Danger* (1966) ですが、翻訳者（英文学者）がそのタイトルを（恐らく内容に鑑み）『汚穢と禁忌』と訳しており、その表現を採用しました。恐らくどの社会にも「穢れ」に対する認識はあると思いますが、文化的な相対性は免れないでしょう。その意味でケガレと Dirt という概念は重複する部分はあるものの一致するものではありません。個人的には、Dirt は社会的な付託を、「ケガレ」にはより宗

教的な付託を感じています。今回、Dirtの社会的な包摂過程をばい菌に援用したのは、両者の差異を超えて、中心に位置すると自認する人物から異端と見なされた対象（いじめの対象）が、ステイグマを負うことなく社会に包摂されるための視点に寄与するのではないかと、という希望から述べたものです。

ついでに述べると、「ばい菌」という語の使用状況を調べて何が言えるのか？」と感じた方も多いのではないかと思います。この点は分野における研究方法とも関わるのですが、社会言語学では社会的なキーワードとなる言語項目（発音であれ語彙であれ）は、さまざまな社会的関係を投影する指標となるという認識を共有しています。典型的な例は、New Yorkにおける / r / の発音が社会的属性（特に階層意識）を指標する（上流階層ほど / r / の使用頻度が高い）といった現象です。その認識に立つと、「ばい菌」の使用は時代や社会を投射する変数として扱うことができます。この点で、社会の公器と認知されたメディアがある語を用いること自体が認知度と関心の証でもあり、「ばい菌」の指示対象がメディアにおいてどのような受容され、拡散したかを考察することで、時系列的な社会的認知の指標を提供すると思ったからです。

Q：私がその点で気になるのが、言語学と心理学などの学問との関係です。言語学は、そうした現象について、心理学やその他の実証研究と、何らかの連携関係を持つのか、あるいは、そうした諸実証研究の成果を下敷きとするのか、また仕事のすみわけをどうするのかについて、補足していただけると幸いです。

A：私自身の研究は、従来の言語学（往々にして文法理論の構築を目指す）の枠組みとは別のところに位置します。また、専門である社会言語学は言語人類学という分野との接点も大きく、なおさら多くの人が考える「言語学」の目的や方法論とは異なるので、一般論としてお答えします。

まず、言語学と心理学の接点は大いにあります。両者を統合した言語心理学は認知科学や脳科学とも協働して発展しています。これらは私の専門とはかなり離れた分野ですが、文化心理学という（比較的新しい）分野とはかなり接点があり、各々の文化におけるものの見方が言語表現と相関するという認識はかなり共有されています。よって、日本でこれらの分野が協働する例は非常にまれですが、研究成果に言及することはままあります。「人間（の用いる言語）とは何か？」という問い突き詰めると学際的にならざるを得ないので、海外では（マジョリテイではないとはいえ）相互乗り入れはけっこう見られます。ただし国内ではほんの一握りの人がやっているという感じです。

Q: 「社会的なキーワードとなる言語項目」(発音であれ語彙であれ)は、さまざまな社会的関係を投影する指標となるという認識を共有しています。典型的な例は、New Yorkにおける /r/ の発音が社会的属性(特に階層意識)を指標する(上流階層ほど /r/ の使用頻度が高い)といった現象です。のところが、大変印象深かったのですが、そうだとすると、日本におけるばい菌言説が、どのような人々において特に多くみられるか、社会階層などと関係あるか、ということが気になりました。

A: 現時点では階層差との関連は認められていません。私は「ばい菌言説」という表現をかなり広い意味で使っています。強いて定義すれば、(1)「ばい菌」という言語表現そのものの社会・歴史的な変異と意味、(2)それをを用いる(あるいは用いられた)人物と使用された場面の関係、(3)メディア、ジャンルの特質、その効果の生成と帰結に至る過程とそれに伴うイデオロギー生成、(4)個人的・社会的な影響への対応策などを含む総合的な言説と考えています。私の発表は、どちらかと言えば(1)の問いを撫でた程度の内容です。したがって、「どのような人が多く用いるか」という疑問については、(2)の問いに対する答えになるかと思っています。ここでは一般的な観察にもとづく雑駁なことしか申し上げませんが、日常生活で他者を「ばい菌」と呼んだとすれば、それは多分に侮蔑的な表現であり、場合によってはヘイトスピーチや名誉棄損の要素になりうるでしょう。その意味で使用者は悪意に満ちた、差別的意図や理念の持ち主であることを示唆するといえるでしょう。しかし「アンパンマン」の登場人物(そして視聴者)にとって、その使用のハードルは下がったように感じます。結果として、「遊びで使っただけ」という言い訳が通用するかどうかは、使用のコンテキストを見ないと何とも言えないところですが、他者を害悪の元に例えること自体、すでに侮蔑的な用法であることは間違いありません。日本でも経済的格差が広がっているものの、階層意識が言語使用に投影されるという事例は、現在のところ欧米のように表立っては報告されていません。今後の検証課題かと思っています。

Q: 余談ですが、私が高校生の頃、8か月ぐらいアメリカにいたことがあります。そのころの美感和っぴ「my car」というときの「car」の発音が、共和党支持系の人と民主党支持系の人とで、少し違うなという印象があります。前者の方が何となくネットとっとなつていくというか。これは、単なる偏見かもしれませんか。

A…興味深いご指摘です。いわゆる巻き舌の / r / の発音（これが「ネットリ」感の理由かと推測します）は、NYでは一般に威信を持つ発音であり、アメリカの大部分を代表する発音とされているので、権威や正統性を重んじる人が好むという傾向はあるかもしれませんが。この点について実際の研究があるかどうかは寡聞にして存じません。ただ、共和党よりも民主党の大統領や政治家の方が、外国語の単語を（英語読みせずに）より現地語の発音に近い音声形式で発音する傾向があるという研究結果はあります。その研究によれば、民主党の方が多様性重視で異文化、多文化への理解を標榜するから、というものでした。

Q…ケガレのことで気になったこととして、一滴でも悪いものが残っていると、いつまでもそれを洗い落とすことができないという発想が、もし仮に日本で、現代にも影響を与えているとすると、ばい菌言説が（もしケガレのそうした発想と関係するとするならば）どの人がどのような人であるかの役割、あるいはその認識の固定化に、かなり関係しているのかなという気がいたします。（中略）もし、仮にケガレというものが、そのようなものだとした場合に、コロナ禍が、社会における強者、弱者等々の役割の固定化の方向に作用するようないところがあるのかもしれないという気がしてしまいます。

A…ご指摘のような方向を危惧します。また、日本はいろいろな点でやり直しが利きにくい社会であることと軌を一にしているように思います。日本に生まれ、生活することで備わる心性であろうと思いますが、これさえも変化の途上にあることは間違いないでしょう。デジタルデイベイドという問題が指摘されて久しいですが、個人間のみならず社会的なインフラへのアクセスの難易という点で、コロナ禍は大きな変化をもたらしたと思います。しかし、これ以上は緻密な議論を必要とするので、今回はここまでとさせていただきます。

以上